

令和7年度シラバス

(令和5年度入学生)



第3学年

茨城県立下妻第二高等学校

令和7年度教育課程編成表

学校番号	76	学校名	茨城県立下妻第二高等学校			学校長名	島根 千春						
		課程名	全日制	学科名	普通科	令和 5年 4月 入学生徒用							
教科	科目	類型または学科名	文Iコース			文IIコース			理コース				
		単位数または時数	学年配当			学年配当			学年配当				
		総単位数	1	2	3	総単位数	1	2	3	総単位数	1	2	3
国語	現代の国語	2	2			2	2			2	2		
	言語文化	3	3			3	3			3	3		
	論理国語	4		2	2	4		2	2	4		2	2
	文学国語	4		2	2	4		2	2				
	古典探究	4		2	2	4		2	2	4		2	2
地理歴史	地理総合	2		2		2		2		3			3
	歴史総合	2	2			2	2			2	2		
	日本史探究	0,6		2	4	0,6		2	4				
	世界史探究	0,6		2	4	0,6		2	4				
	*歴史探究	1			1	1			1				
公民	公共	2	2			2	2			2	2		
	政治・経済	3			3	2			2				
数学	数学I	3	3			3	3			3	3		
	数学II	4,6		4		4		4		4,8		4	
	数学III				2					0,4			4
	数学A	2	2			2	2			2	2		
	数学B					2			2	2			2
	数学C					2			2	2			2
理科	物理基礎									0,3			
	物理									0,5		3	
	化学基礎	2	2			2	2			2	2		5
	化学									6	3		3
	生物基礎	2,4		2		4		2	2	0,3			
	生物									0,5			
	地学基礎	2		2		2,4		2		2		2	
*化学探究					0,2			2					
保健体育	体育	8	3	2	3	7	3	2	2	7	3	2	2
	保健	2	1	1		2	1	1		2	1	1	
芸術	音楽I	0,2				0,2				0,2			
	音楽II	0,2	2				2				2		
	書道I	0,2			2	0,2				0,2			
	書道II	0,2											
外国語	英語コミュニケーションI	3	3			3	3			3	3		
	英語コミュニケーションII	4		4		4		4		4		4	
	英語コミュニケーションIII	4			4	4			4	4			4
	論理・表現I	2	2			2	2			2	2		
	論理・表現II	2		2		2		2		2		2	
	論理・表現III	3			3	2			2	2			2
家庭	家庭基礎	2	2			2	2			2	2		
情報	情報I	2		2		2		2		2		2	
	*情報活用実践	1			1								
共通科目の履修単位数計		87	29	29	29	87	29	29	29	87	29	29	29
総合的な探究の時間		3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1
履修単位数合計		90	30	30	30	90	30	30	30	90	30	30	30
ホームルーム活動の週当たり配當時数		3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1
組数		4			1			2					
		授業の1単位時間											
		50分											
		二期											

令和7年度 国語科 論理国語 シラバス

1 科目・単位数・履修学年・履修区分・使用する教科書

科目名	論理国語	単位数	2	履修学年・区分	3学年(全クラス)
使用する教科書	「探求 論理国語」(桐原書店)				
副教材	「探求 論理国語 準拠 予習復習ノート」(桐原書店)				

2 学習目標

(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。(2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3 学習方法

- ・副教材や辞書を活用して予習に努め、単元の終わりには準拠の問題集を家庭学習し、理解を深める。
- ・教材を通して、思考を深めたり関心を広げたりし、自ら新聞等を活用することで見識を深める。
- ・定期考査をはじめ、小テスト(漢字や語句など)や提出物(課題・授業プリント・感想文・レポート)を確実にこなしていく。

4 学習内容

学期	区分	学習内容/評価範囲	学習のねらい
前期	中間考査	芸術・認識「オブジェとイメージ」	人間の認識とイメージーションとの関わりについて考察する。
		評論解析「権力にまつわる『秘密』」	「特定秘密保護法」と権力との「秘密」の関係から、情報から見た現代社会の姿について考察する。
後期	期末考査	近代・家族「市民社会化する家族」	核家族化した近代家族の姿がさらに変貌を遂げようとする現代の情勢について考察する。
		書く「知的創造のために」	知的創造のために必要な「他者との対話」や自分の中の書きたいことなどについて、考える。
後期	中間考査	日本文化・演劇「言葉の〈意味〉と〈表徴〉」	「意味」と「表徴」との差異とその二つの効果について読解し、その違いや同じ観点などを考える。
		文化・観光「ファンタジー・ワールドの誕生」	観光という近現代的な行為に潜む「未開」への視点を読み取り、筆者の問題提起について考える。
後期	学年末考査	「日本文化私観」	筆者が指摘する伝統や国民性などへの欺瞞を考察し、我々がどう生きるかについて考察する。
		社会・世界「地図の想像力——ボードリヤールの寓話」	社会の構造を論じながら、社会についての常識を相対化する内容を読み取り、現代社会を捉え直す。

5 学習評価

評価項目	観点1	観点2	観点3
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業観察	○	○	○
発表	○	○	○
提出物			○
レポート		○	○
小テスト	○		
定期考査	○	○	○
備考	○印はそれぞれの観点の重点項目を表しています。それぞれの観点ごとに、A十分満足できる、Bおおむね満足できる、C努力を要すると評価します。		

6 学習サポート(担当者から)

国語の学習は日々の積み重ねが大切です。また、世間のニュースや話題に関心を持ち、現代社会を生きる私たちが抱える課題について考えを深めていきましょう。自らの考えをまとめ、周囲と積極的に意見を交流することで視野が広がります。漢字検定や小論文模試にも意欲的に取り組んで下さい。

令和7年度 国語科 文学国語 シラバス

1 科目・単位数・履修学年・履修区分・使用する教科書

科目名	文学国語	単位数	2	履修学年・区分	3学年文ⅠⅡ(5クラス)
使用する教科書	「探究 文学国語」(桐原書店)				
副教材	「探究文学国語 準拠 予習復習ノート」(桐原書店)、「読解を深める 現代文単語 評論・小説」(桐原書店)				

2 学習目標

(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。(2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3 学習方法

- ・副教材や辞書を活用して予習に努め、単元の終わりには学習課題集を家庭学習し、理解を深める。
- ・教材を通して、思考を深めたり関心を広げたりし、自ら図書館等を活用することで見識を深める。
- ・定期考査をはじめ、小テスト(漢字や語句など)や提出物(課題・授業プリント・感想文・レポート)を確実にこなしていく。

4 学習内容

学期	区 分	学習内容/評価範囲	学習のねらい
前 期	中間考査	「『少年』という名前のメカ」(松田青子)	小説を寓話的に読むことを通じて、自分の置かれた現状と現代社会を照らし合わせ、考えを深める。
		「詩人のふるさと」(富岡多恵子)	詩人が自作を「直す」ことの意味について考える。
後 期	期末考査	「客ざらい」(谷崎潤一郎)	流れるような文体の美しさとユーモアを味わい、生徒の文章への書くことへの関心を高める。
		「バックストローク」(小川洋子)	描かれた状況、人物、心情などを丁寧な読解作業を通して的確に捉える。
後 期	中間考査	「短歌一寺山修司十首」 「俳句一虹の俳句七句」	今日の高度な機械文明の中で失われがちな感性や想像力、人間性を豊かにする。
		「檸檬」(梶井基次郎)	事物の描写に着目して、「私」の心情を理解する。時代背景を調べ、作品への理解を深める。
後 期	学年末考査	「舞姫」(森鷗外)	手記形式に注目して、小説の内容を読み取る。時代背景を調べ、作品への理解を深める。
		「参加する顧客」(内田樹)	映画というものの存在意義や味わい方を学びながら、文学世界を楽しむ。

5 学習評価

評価項目	観点1	観点2	観点3
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業観察	○	○	○
発表	○	○	○
提出物			○
レポート		○	○
小テスト	○		
定期考査	○	○	○
備考	○印はそれぞれの観点の重点項目を表しています。それぞれの観点ごとに、A十分満足できる、Bおおむね満足できる、C努力を要すると評価します。		

6 学習サポート(担当者から)

様々な文学作品を正確に読み解き、深く共感したり豊かに想像したりする経験を積んでいきましょう。また、授業以外で積極的に図書館を利用して読書に親しむことも大切です。さらに、創作や発表などの言語活動を通じて語感を磨き、語彙を更に豊かにしていくことを目標に取り組んで下さい。

令和7年度 国語科 古典探究 シラバス

1 科目・単位数・履修学年・履修区分・使用する教科書

科目名	古典探究	単位数	2	履修学年・区分	3学年(全クラス)
使用する教科書	「高等学校 精選古典探究」(第一学習社)				
副教材	「精選古典探究 学習課題集」(第一学習社)／「完全マスター古典文法」(第一学習社)／「古文単語330」(いいずな書店)				

2 学習目標

(1) 必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。(2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3 学習方法

- ・単語の区切れや歴史的仮名遣いに気をつけながら、教科書を繰り返し音読する。
- ・作品内容を正確に読み取り、基本的な古文単語や文法事項、漢文の句形を確実に覚えていく。
- ・定期考査をはじめ、小テスト(毎週の古文単語テスト等)や提出物(課題/授業プリント/感想文/レポート等)を確実にこなしていく。

4 学習内容

学期	区分	学習内容/評価範囲	学習のねらい
前 期	中間考査	説話『癸心集』『宇治拾遺物語』 随筆『枕草子』 逸話「不顧後患」「不死之道」	展開や表現に即して内容を理解する。 日記的章段を読み、当時の生活への理解を深める。 古代における様々な考え方を作品から読み取る。
		物語『源氏物語』『夕顔の死』 読み比べる・「夕顔」(江國香織) 漢詩「陶潜」「杜甫」「白居易」	長編小説としてのストーリーをたどりながら、心理描写の巧みさを捉える。様々な口語訳に親しむ。 構成に留意して作品を鑑賞し、詩に表れた作者の思いや、詩に描かれた人物の思いを読み取る。
後 期	中間考査	随筆『俊頼髓脳』『無名抄』 物語『大鏡』『三舟の才』	作品を読み、和歌に関する様々な考え方の一端に触れる。歴史物語に描かれた人々の姿に触れる。
		諸家の文章「医薬談笑」「売柑者言」	作品の内容を的確に読み取り、その主張や例の意味を正しく理解する。
後 期	学年末考査	評論『玉勝間』	作者の論理を理解し、古文を評価する態度や手法について考えを深める。
		史記の群像「管鮑之交」	王位継承をめぐる戦いの経緯を人物関係とともに押さえ、作品を読み味わう。

5 学習評価

評価項目	観点1	観点2	観点3
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業観察	○	○	○
発表	○	○	○
提出物			○
レポート		○	○
小テスト	○		
定期考査	○	○	○
備考	○印はそれぞれの観点の重点項目を表しています。それぞれの観点ごとに、A十分満足できる、Bおおむね満足できる、C努力を要すると評価します。		

6 学習サポート(担当者から)

古典の学習では音読が大切です。予習復習を通じて基本的な古語や文法事項、漢文の句形を着実に身につけ、伝統的な言語文化に対する知識と理解を深めていきましょう。また、古典作品を読み味わうことで、古人のものの見方や感じ方から学び、視野をさらに広げていって下さい。

令和7年度 地理歴史科 地理総合の学習(シラバス)

1 シラバス・単位数・履修学年・履修区分・使用する教科書

教科名	地理総合	単位数	3	履修学年・区分	第3学年理コース
使用する教科書	『高等学校 新地理総合』(帝国書院)				
副教材等	『新地理総合ノート』(帝国書院)				

2 学習目標

社会的事象を、位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けること。

3 学習方法

教科書、資料集、視聴覚教材やタブレットによるデジタル学習を多角的に活用して授業を展開し、理解を図る。

4 学習内容

学期	区分	学習内容、評価範囲等
前期	中間考査	【第1部 地図でとらえる現代世界】 第1章 地図と地理情報システム 1節 地球上の位置と時差 2節 地図の役割と種類
	期末考査	第2章 結び付きを深める現代世界 1節 現代世界の国家と領域 2節 グローバル化する世界 【第2部 国際理解と国際協力】 第1章 生活文化の多様性と国際理解 序説 生活文化の多様性 1節 世界の地形と人々の生活 2節 世界の気候と人々の生活 3節 世界の言語・宗教と人々の生活 4節 歴史的背景と人々の生活 5節 世界の産業と人々の生活第
後期	中間考査	2章 地球的課題と国際協力 1節 複雑に絡み合う地球的課題 2節 地球環境問題 3節 資源・エネルギー問題 4節 人口問題 5節 食料問題 6節 都市・居住問題
	期末考査	【第3部 持続可能な地域づくりと私たち】 第1章 自然環境と防災 1節 日本の自然環境 2節 地震・津波と防災 3節 火山災害と防災 4節 気象災害と防災 5節 自然災害への備え
学期	区分	学習内容、評価範囲等
<ul style="list-style-type: none"> ・教科書、地図帳、資料集を使用します。特に資料集と地図帳を中心に授業を行います。 ・ICTを活用した授業、グループ活動を数多く実施します。 ・プレゼンテーションの実施 ・これまで学習した科目との関連を大切にしていきます。 		

5 学習評価

評価項目	観点1	観点2	観点3
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
授業観察	○	○	○
小テスト	○		
提出物		○	○
定期考査	○	○	○

6 担当者からのメッセージ

日本について教えてくれ、と言われたらどのように答えますか。自国を語るためには他国との差異を知らなければなりません。地理を学習すれば、気候や地形、宗教、文化などの様々な相違点が見つかります。往々にして、我々の日常は他国の人にとって非日常であり、どこで生まれるか(下部構造)によって習慣や価値観(上部構造)などが変化します。もし中東で育っていたら？スペインで生まれていたら？あなたはどのような人間に育ち、どのような価値基準を持っていたのでしょうか。学習を通じて、日本や自分自身に対する解像度を上げていきましょう。

令和7年度 社会科 日本史探究の学習(シラバス)

1 科目・単位数・履修学年・履修区分・使用する教科書

科目名	日本史探究	単位数	4	履修学年・区分	第3学年 文コース
使用する教科書	詳説日本史(山川出版社)				
副教材等	新詳日本史(浜島書店)、ゼミナール日本史(浜島書店)				

2 学習目標

日本史探究では、我が国の文化と伝統の特色に対する認識を歴史総合での学習内容と関連付けながら総合的に理解し、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養うことを目標とする。また、社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

3 学習方法

教科書、資料集、視覚教材を活用し、知識を習得したうえで、グループワークやアクティブラーニングを積極的に取り入れ、体系的理解を図る。

4 学習内容

学期	区分	学習内容/評価範囲等
前期	中間考査	第8章 近世の幕開け 第9章 幕藩体制の成立と展開
	期末考査	第10章 幕藩体制の動揺 第11章 近世から近代へ 第12章 近代国家の成立
後期	中間考査	第13章 近代国家の展開 第14章 近代の産業と生活 第15章 恐慌と第二次世界大戦
	期末考査	第16章 占領下の日本 第17章 高度成長の時代 第18章 激動する世界と日本

5 学習評価

評価項目	観点1	観点2	観点3
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業観察・発表等		○	○
提出物・レポート等	○	○	○
定期考査・小テスト	○	○	
備考	○印はそれぞれの観点の重点項目を表しています。それぞれの観点ごとに、A十分満足できる、Bおおむね満足できる、C努力を要すると評価します。		

6 学習サポート(担当者から)

歴史上の様々な出来事は、いろいろな因果関係が複雑に影響しあって成り立っているものです。種々の史料を活用し考察を深めていく中で、歴史のおもしろさや知ることの楽しさを味わってほしいと思います。過去を知ることによって今を理解し、未来を生きる力を培う、それこそが歴史を学ぶ意義です。

令和7年度 地理歴史科 世界史探究の学習(シラバス)

1 科目・単位数・履修学年・履修区分・使用する教科書

科目名	世界史探究	単位数	4	履修学年・区分	第3学年
使用する教科書	『世界史探究』(実教出版)				
副教材等	『世界史探究 マイノート』(実教出版)				

2 学習目標

<p>今年度の授業では、以下のことを目指します。</p> <p>①日本を含めた様々な世界の歴史について基礎的な知識を身に付けること ②歴史的思考力を涵養し、社会的事象の因果関係や相関関係などを透徹すること ③世界史に興味・関心を抱き、積極的に身近なものや概念の成立過程に着目できるようになること</p>

3 学習方法

<p>上記の学習目標を達成するために状況に応じた学習方法を採用します。</p> <p>①の目標を達成するためには講義形式、小テストなどを、②では生徒同士による対話的・協同的な学びを採用します。また、③の能力を養うために日常生活世界と世界史を関連させる課題や発問を心がけます。</p>

4 学習内容

学期	区分	学習内容/評価範囲等
前期	中間考査	7章「中央ユーラシアと諸地域の交流・再編」 8章「大交易時代」 9章「アジア諸地域の帝国」 10章「近世ヨーロッパの形成と展開」
	期末考査	11章「産業革命と大西洋革命」 12章「近代ヨーロッパ・アメリカの国民国家」 13章「地球をおおう帝国主義と世界諸地域の抵抗」
後期	中間考査	14章「第一次世界大戦と諸地域の変容」 15章「第二次世界大戦と戦後の国際秩序」 16章「冷戦と現代世界」
	期末考査	17章「世界経済の展開」 18章「科学技術の時代と知識基盤社会」

5 学習評価

評価項目	観点1	観点2	観点3
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業観察・発表等		○	○
提出物・レポート等	○	○	
定期考査・小テスト	○		○
備考	○印はそれぞれの観点の重点項目を表しています。それぞれの観点ごとに、A十分満足できる、Bおおむね満足できる、C努力を要すると評価します。		

6 学習サポート(担当者から)

<p>例えば、日本が江戸時代だったころ、世界にはどのような景色が広がっていたのでしょうか。「ヨコの歴史」に興味を持つことは世界を知ることにつながります。この授業を通して、世界に視野を広げ、幅広い視点を持つことの大切さを学んでほしいと思います。そして、現在の世界で起こっている民族紛争や貧困と格差などの諸問題と世界史を結び付けて考察できる歴史観を身に付けてください。</p>
--

令和7年度 地理歴史科 歴史探究の学習(シラバス)

1 シラバス・単位数・履修学年・履修区分・使用する教科書

教科名	歴史探究	単位数	1	履修学年・区分	第3学年
使用する教科書	『詳述 歴史総合 マイノート』(実教出版)				
副教材等					

2 学習目標

今年度の授業では、以下の能力の育成を目指します。

- ①日本及び世界の歴史の展開に関して理解しているとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的にまとめている。(知識及び技能)
- ②歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、それらを基に議論したりしている。(思考力、判断力、表現力等)
- ③地理や歴史に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしている。(学びに向かう力、人間性等)

3 学習方法

教科書、副教材、史料と文献、ICT教材等を活用した授業を行います。

4 評価方法

本授業は以下の学習項目をもとに多角的・多面的に評価する。

5 学習評価

評価項目	観点1	観点2	観点3
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業観察・発表等		○	○
提出物・レポート等	○	○	○
定期考査・小テスト	○	○	
備考	○印はそれぞれの観点の重点項目を表しています。それぞれの観点ごとに、A十分満足できる、Bおおむね満足できる、C努力を要すると評価します。		

6 担当者からのメッセージ

『歴史探究』を学ぶみなさんには、私たちが「当たり前」だと思っている価値観や感性、文化などが歴史的な因果関係によって形成されていることを学んでもらいたいです。そして、あらゆる事象に「なぜ」「どうして」という疑問を抱き、それを解決できる人材になってください。

令和7年度 公民科 政治・経済の学習(シラバス)

1. シラバス・単位数・履修学年・履修区分・使用する教科書

教科名	政治経済	単位数	文Ⅰ:3 文Ⅱ:2	履修学年・区分	第3学年文Ⅰ・文Ⅱ
使用する教科書	政治・経済(第一学習社 706)				
副教材等	政治・経済ノート				

2. 学習目標

現代における政治, 経済, 国際関係などについて客観的に理解させるとともに, それらに関する諸課題について主体的に考察させ, 公正な判断力を養い, 良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

3. 学習方法

教科書、資料集、視聴覚教材やインターネット等を多角的に活用して授業を展開し、理解を図る。

4. 学習方法

学期	区分	学習内容、評価範囲等
前期	中間考査	第2編 第1章 現代経済のしくみと特質 ①経済社会の発展 ②経済主体と経済活動 ③市場経済の機能と限界
	期末考査	第2編 第1章 現代経済のしくみと特質 ④経済成長と景気変動 ⑤物価の動き ⑥金融のしくみとはたらき ⑦財政のしくみとはたらき ⑧日本経済の歩み
後期	中間考査	第2編 第1章 現代経済のしくみと特質 ⑨中小企業の地位と役割 ⑩農業の現状と課題 ⑪消費者問題 ⑫高度情報社会の進展と課題 ⑬労働問題 ⑭社会保障制度の充実 ⑮環境保全と資源・エネルギー問題
	期末考査	第2編 第2章 国民経済と国際経済

5. 学習評価

評価項目	観点1 知識・技能	観点2 思考・判断・表現	観点3 主体的に学習に取り組む態度
授業観察		○	○
提出物・レポート等	○	○	○
定期考査	○	○	
備考	○印はそれぞれの観点の重点項目を表しています。それぞれの観点ごとに、A十分満足できる、Bおおむね満足できる、C努力を要すると評価します。		

6. 担当者からのメッセージ

現代の社会と人間にかかわる事柄から課題を見だし, 社会的事象の本質や人間の存在及び価値などについて広い視野に立って多面的・多角的に考察し, 社会の変化や様々な考え方を踏まえ公正に判断して, その過程や結果を適切に表現できる力を身につけてください。

令和 7年度 数学Ⅱ の学習(シラバス)

1 科目・単位数・履修学年・履修区分・使用する教科書

科目名	数学Ⅱ	単位数	2	履修学年・区分	第3学年・文Ⅰクラス
使用する教科書	数研出版『数学Ⅱ』				
副教材等	数研出版『クリアー数学Ⅰ+A』				

2 学習目標

<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。</p> <p>(3)数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>

3 学習方法

<p>基本的に演習形式の授業になります。主に数学ⅠAの内容を扱いますので、事前学習はもちろん、授業の中での解説を基に復習を行いしっかりと知識を定着させてください。</p>

4 学習内容

学期	区分	学習内容/評価範囲等
前期	中間考査	数学Ⅰ 第1章 数と式 (1)式の計算 (2)実数 (3)1次不等式 第2章 2次関数 (1)2次関数とグラフ (2)2次不等式と2次方程式
	期末考査	数学Ⅰ 第1章 数と式 (4)集合と命題 数学A 第1章 場合の数と確率 (1)場合の数 (2)確率
後期	中間考査	数学Ⅰ 第3章 図形と計量 (1)三角比 (2)三角形への応用 数学A 第2章 図形の性質 (1)平面図形 (2)空間図形
	期末考査	数学Ⅰ 第4章 データの分析 数学A 第3章 整数の性質 (1)約数と倍数 (2)ユークリッドの互除法 (3)整数の性質の活用

5 学習評価

評価項目	観点1	観点2	観点3
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業観察・発表等	○	○	○
提出物・レポート等		○	○
定期考査・小テスト	○	○	○
備考	○印はそれぞれの観定の重点項目を表しています。それぞれの観点ごとに、A十分満足できる、Bおおむね満足できる、C努力を要すると評価します。		

6 学習サポート(担当者から)

<p>問題演習・解説を通して数学ⅠAの内容の復習していきます。既習の範囲ですので、過去の学習内容が定着しているかしっかり確認しながら学習を進めていってください。数学は、進学においても就職においても必要な知識となります。繰り返し演習を行っていく中で、知識や技能の習得だけでなく、数学への興味や関心を広げていってください。</p>

令和7年度 数学Ⅱ の学習(シラバス)

1 科目・単位数・履修学年・履修区分・使用する教科書

科目名	数学Ⅱ	単位数	4	履修学年・区分	第3学年・理系クラス
使用する教科書	数研出版『数学Ⅱ』				
副教材等	ベストセクション大学入学共通テスト2024 数学 重要問題集				

2 学習目標

<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。</p> <p>(3)数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>

3 学習方法

<p>問題演習を中心に進めていきます。解説によって理解するのではなく、自発的に予習(演習)をし、不明な点を授業によって埋めていくことを心がけて下さい。与えられた教材はもちろんのこと、自分の進路にあったものを自らの選択によって進めることも大切です。</p>

4 学習内容

学期	区分	学習内容/評価範囲等
前期	中間考査	数と式 2次関数 図形と計量
	期末考査	場合の数と確率 図形の性質 整数の性質
後期	中間考査	式と証明 複素数と方程式 図形と方程式 三角関数 指数関数 対数関数 微分法 積分法
	期末考査	平面上のベクトル 空間のベクトル 数列

5 学習評価

評価項目	観点1	観点2	観点3
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業観察・発表等	○	○	○
提出物・レポート等		○	○
定期考査・小テスト	○	○	○
備考	○印はそれぞれの観点の重点項目を表しています。それぞれの観点ごとに、A十分満足できる、Bおおむね満足できる、C努力を要すると評価します。		

6 学習サポート(担当者から)

<p>3学年になり各自の進路に必要な科目の得意分野・苦手分野を見極め、学習計画をきちんと立て目標の実現に精一杯の努力をしましょう。不明な点はそのままにせず、先生に質問し、早めに解決しましょう。</p>
--

令和 7年度 数学Ⅲ の学習(シラバス)

1 科目・単位数・履修学年・履修区分・使用する教科書

科目名	数学Ⅲ	単位数	4	履修学年・区分	3学年・理系クラス選択者
使用する教科書	数研出版『数学Ⅲ』				
副教材等	数研出版『サクシード数学Ⅲ 新課程 教科書傍用』				

2 学習目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 極限、微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数式化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

(2) 数列や関数の値の変化に着目し、極限について考察したり、関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察したりする力、いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。

(3) 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

3 学習方法

大切なのは演習です。授業に集中し、その内容を問題集を用いて毎日復習をすること。その際、記述の表現の仕方も意識してまねをし、最終的に自分の言葉で表現できるようになってください。数学ⅠAⅡBCの内容すべてのまとめの意味合いがありますので、よく復習しておきましょう。

4 学習内容

学期	区分	学習内容/評価範囲等
前期	中間考査	第1章 複素数平面、第2章 式と曲線
	期末考査	第3章 関数、第4章 極限
後期	中間考査	第5章及び第6章 微分法とその応用
	期末考査	第7章及び第8章 積分法とその応用

5 学習評価

評価項目	観点1	観点2	観点3
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業観察・発表等	○	○	○
提出物・レポート等		○	○
定期考査・小テスト	○	○	○
備考	○印はそれぞれの観点の重点項目を表しています。それぞれの観点ごとに、A十分満足できる、Bおおむね満足できる、C努力を要すると評価します。		

6 学習サポート(担当者から)

数Ⅲを学習していると難しく感じて手が付けられなくなるようです。実は数Ⅲで新しく学習することはそれほどありません。難しいと感じるのは、1、2年で学習した数学が理解できていないためです。ⅠAⅡBCの学習を大切にしてください。また、数学を学習するうえでの道具である「展開・因数分解」ができないのでは困ります。練習しましょう。ただ練習するのではなく、どうすれば効率よく計算できるのかを意識しながら学習してください。道具を使いこなせれば、それだけで自信になります。

令和 7年度 数学B の学習(シラバス)

1 科目・単位数・履修学年・履修区分・使用する教科書

科目名	数学B	単位数	2	履修学年・区分	第3学年・文Ⅱ・理系
使用する教科書	数研出版『数学B』				
副教材等	数研出版『クリアー数学B 新課程 教科書傍用』				

2 学習目標

<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。</p> <p>(3)数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>
--

3 学習方法

<p>基本的に講義形式の授業になります。数学Bの事前学習はもちろん、授業の中での解説を基に復習を行いしっかりと知識を定着させてください。</p>
--

4 学習内容

学期	区分	学習内容/評価範囲等
前期	中間考査	第1章 数列
	期末考査	第2章 統計的な推測
後期	中間考査	第3章 数学と社会生活
	期末考査	共通テスト対策

5 学習評価

評価項目	観点1	観点2	観点3
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業観察・発表等	○	○	○
提出物・レポート等		○	○
定期考査・小テスト	○	○	○
備考	○印はそれぞれの観定の重点項目を表しています。それぞれの観点ごとに、A十分満足できる、Bおおむね満足できる、C努力を要すると評価します。		

6 学習サポート(担当者から)

<p>3学年になり各自の進路に必要な科目の得意分野・苦手分野を見極め、学習計画をきちんと立て目標の実現に精一杯の努力をしましょう。不明な点はそのままにせず、先生に質問し、早めに解決しましょう。</p>
--

令和7年度 数学C の学習(シラバス)

1 科目・単位数・履修学年・履修区分・使用する教科書

科目名	数学C	単位数	2	履修学年・区分	第3学年・文Ⅱクラス
使用する教科書	数研出版『数学C』				
副教材等	数研出版『クリアー 数学C』				

2 学習目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)ベクトル、平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

(2)大きさや向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。

(3)数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

3 学習方法

基本的に講義形式の授業になります。数学Cの事前学習はもちろん、授業の中での解説を基に復習を行いしっかりと知識を定着させてください。

4 学習内容

学期	区分	学習内容/評価範囲等
前期	中間考査	第1章 平面上のベクトル
	期末考査	第2章 空間のベクトル
後期	中間考査	第3章 複素数平面
	期末考査	第4章 式と曲線

5 学習評価

評価項目	観点1	観点2	観点3
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業観察・発表等	○	○	○
提出物・レポート等		○	○
定期考査・小テスト	○	○	○
備考	○印はそれぞれの観点の重点項目を表しています。それぞれの観点ごとに、A十分満足できる、Bおおむね満足できる、C努力を要すると評価します。		

6 学習サポート(担当者から)

3学年になり各自の進路に必要な科目の得意分野・苦手分野を見極め、学習計画をきちんと立て目標の実現に精一杯の努力をしましょう。不明な点はそのままにせず、先生に質問し、早めに解決しましょう。

令和7年度 理科 物理の学習（シラバス）

1 科目・単位数・履修学年・履修区分・使用する教科書

科目名	物理	単位数	5	履修学年・区分	3年・理コース
使用する教科書	数研出版 総合物理1・2				
副教材等	リードLightノート 物理				

2 学習目標

物理的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。

3 学習方法

演示実験を見ながら自然現象に対し興味関心を持つ。復習（特に問題演習）を十分にやって、理解を深め、知識を定着する。

4 学習内容

学期	区分	学習内容/評価範囲等
前期	中間考査	第1編 力と運動 第1章 運動の表し方 1. 速度 2. 加速度 3. 落体の運動 第2章 運動の法則 1. 力とそのはたらき 2. 力のつりあい 3. 運動の法則 4. 摩擦を受ける運動 5. 液体や気体から受ける力 6. 剛体にはたらく力のつりあい 第3章 仕事と力学的エネルギー 1. 仕事 2. 運動エネルギー 3. 位置エネルギー 4. 力学的エネルギーの保存
	期末考査	第4章 運動量の保存 1. 運動量と力積 2. 運動量保存則 3. 反発係数 第5章 円運動と万有引力 1. 等速円運動 2. 慣性力 3. 単振動 4. 万有引力
後期	中間考査	第2編 熱と気体 第1章 熱と物質 1. 熱と熱量 2. 熱と物質の状態 3. 熱と仕事 第2章 気体のエネルギーと状態変化 1. 気体の法則 2. 気体分子の運動 3. 気体の状態変化 4. 不可逆変化と熱機関 第3編 波 第1章 波の性質 1. 波と媒質の運動 2. 波の伝わり方 第2章 音 1. 音の性質 2. 発音体の振動と共振・共鳴 3. 音のドップラー効果 第3章 光 1. 光の性質 2. レンズ 3. 光の干渉と回折
	期末考査	第4編 電気と磁気 第1章 電場 1. 静電気力 2. 電場 3. 電位 4. 物質と電場 5. コンデンサー 第2章 電流 1. オームの法則 2. 直流回路 3. 半導体 第3章 電流と磁場 1. 磁場 2. 電流のつくる磁場 3. 電流が磁場から受ける力 4. ローレンツ力 第4章 電磁誘導と電磁波 1. 電磁誘導の法則 2. 自己誘導と相互誘導 3. 交流の発生 4. 交流回路 5. 電磁波 第5編 原子 第1章 電子と光 1. 電子 2. 光の粒子性 3. X線 4. 粒子の波動性 第2章 原子と原子核 1. 原子の構造とエネルギー準位 2. 原子核 3. 放射線とその性質 4. 核反応と核エネルギー 5. 素粒子

5 学習評価

評価項目	観点1	観点2	観点3
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業観察・発表等		○	○
提出物・レポート等	○	○	○
定期考査・小テスト	○	○	
備考	○印はそれぞれの観点の重点項目を表しています。それぞれの観点ごとに、A十分満足できる、Bおおむね満足できる、C努力を要すると評価します。		

6 学習サポート(担当者から)

図を描いて、現象をしっかりとイメージし、理解を深めよう。
 授業でわからないところがある場合は、早めに気軽に質問して下さい。
 「観察したり、理解したりする喜びは、自然からの最大の贈り物だ」
 (アルベルト・アインシュタイン)

令和 7年度 理科 化学 シラバス

1 科目・単位数・履修学年・履修区分・使用する教科書

科目名	化学	単位数	3	履修学年・区分	3学年・理系クラス
使用する教科書	数研出版『化学』				
副教材等	数研出版『リードα』				

2 学習目標

<ul style="list-style-type: none"> ・化学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。 ・物質とその変化について、化学的な解釈や説明ができることを通して、興味・関心を探究心にまで高め、知的好奇心をもって問題を見だし、主体的に解決しようとする意欲を高める。 ・生徒自身が課題を見つけ、主体的・意欲的に観察、実験などに取り組む。 ・探究の過程をたどらせることによって、科学の方法を習得させ、化学的に探究する能力や態度を育てる。 ・化学的な事物・現象に関する基礎的な知識および基本的な概念や原理・法則を、深く系統的に理解させる。 ・物質やその変化に関する原理・法則を系統的に理解し、正しい物質感を身に付けさせ、他の科目とも関連させて、自然界の事物・現象を分析的、総合的に考察する能力を育成する。

3 学習方法

講義形式の授業を中心に実験、演習も行います。予習、復習を十分に行って、理解を深め、知識を定着させて下さい。また、目的意識を持って積極的に実験、演習に取り組んで下さい。

4 学習内容

学期	区分	学習内容/評価範囲	学習の狙い
前期	中間考査	第3編 無機物質 第3章 金属元素(Ⅱ) 第4編 有機化合物 第1章 有機化合物の分類と分析	・遷移元素の特徴や反応について理解する。 ・有機化合物の分類を理解し、分析で
	期末考査	第4編 有機化合物 第2章 脂肪族炭化水素 第3章 アルコールと関連化合物	・アルコール関連化合物の分類や特徴、反応について理解する。
後期	中間考査	第4編 有機化合物 第4章 芳香族化合物	・芳香族化合物の特徴や反応について理解する。
	期末考査	第5編 天然有機化合物 第6編 合成高分子化合物	・天然高分子や合成高分子の性質や特徴、利用方法などを理解する。

5 学習評価

評価項目	観点1	観点2	観点3
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業観察・発表等	○	○	○
提出物・レポート等	○	○	○
定期考査・小テスト	○	○	○
備考	○印はそれぞれの観点の重点項目を表しています。それぞれの観点ごとに、A十分満足できる、Bおおむね満足できる、C努力を要すると評価します。		

6 学習サポート(担当者から)

知識として覚えなければいけないことが多く出てくる範囲です。復習を重視して着実に定着できるようにして下さい。

令和7年度 理科 生物基礎の学習（シラバス）

1 科目・単位数・履修学年・履修区分・使用する教科書

科目名	生物基礎	単位数	2	履修学年・区分	3学年・文Iクラス選択科目
使用する教科書	生物基礎(実教出版)				
副教材等	生物基礎エブリノート、スクエア最新図説生物、セミナー生物基礎、				

2 学習目標

身の回りの生活や社会との関連を図りながら生物や自然を取り巻く環境への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物の基本的な概念や原理・原則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。

3 学習方法

授業(講義形式)、副教材の問題集等を利用した復習により内容の理解・知識の定着をさせる。

4 学習内容

学期	区分	学習内容/評価範囲等
前期	中間考査	1章 ヒトのからだの調節 1 体内環境 2 体内環境の維持のしくみ 3 免疫
	期末考査	4章 生物の多様性と生態系 1 植生と遷移 2 植生とバイオーム 3 生態系と生物の多様性
後期	中間考査	1章 生物の特徴 2章 遺伝子とその働き
	期末考査	共通テスト対策演習

5 学習評価

評価項目	観点1	観点2	観点3
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業観察・発表等		○	○
提出物・レポート等	○	○	○
定期考査・小テスト	○	○	
備考	○印はそれぞれの観点の重点項目を表しています。それぞれの観点ごとに、A十分満足できる、Bおおむね満足できる、C努力を要すると評価します。		

6 学習サポート(担当者から)

法則や計算問題等のポイントを押さえながら、グラフや図表を読み解くことも学習活動でも大切です。学習は授業や復習を軸にして問題集等で補ってください。生物には、細胞・遺伝・免疫・生態系等のヒトという生物自身や身の回りの自然に関する内容があり、幅広い科学的な自然観を養う学習分野です。学習活動を通し自然現象等により関心・興味を持ってください。

令和7年度 理科 生物基礎の学習（シラバス）

1 科目・単位数・履修学年・履修区分・使用する教科書

科目名	生物基礎	単位数	2	履修学年・区分	3学年・文Ⅱクラス
使用する教科書	生物基礎(実教出版)				
副教材等	生物基礎エブリノート、スクエア最新図説生物、セミナー生物基礎、				

2 学習目標

身の回りの生活や社会との関連を図りながら生物や自然を取り巻く環境への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物の基本的な概念や原理・原則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。

3 学習方法

授業(講義形式)、副教材の問題集等を利用した復習により内容の理解・知識の定着をさせる。

4 学習内容

学期	区分	学習内容/評価範囲等
前期	中間考査	1章 ヒトのからだの調節 1 体内環境 2 体内環境の維持のしくみ 3 免疫
	期末考査	4章 生物の多様性と生態系 1 植生と遷移 2 植生とバイオーム 3 生態系と生物の多様性
後期	中間考査	1章 生物の特徴 2章 遺伝子とその働き
	期末考査	共通テスト対策演習

5 学習評価

評価項目	観点1	観点2	観点3
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業観察・発表等		○	○
提出物・レポート等	○	○	○
定期考査・小テスト	○	○	
備考	○印はそれぞれの観点の重点項目を表しています。それぞれの観点ごとに、A十分満足できる、Bおおむね満足できる、C努力を要すると評価します。		

6 学習サポート(担当者から)

法則や計算問題等のポイントを押さえながら、グラフや図表を読み解くことも学習活動でも大切です。学習は授業や復習を軸にして問題集等で補ってください。生物には、細胞・遺伝・免疫・生態系等のヒトという生物自身や身の回りの自然に関する内容があり、幅広い科学的な自然観を養う学習分野です。学習活動を通し自然現象等により関心・興味を持ってください。

令和7年度 理科 生物の学習（シラバス）

1 科目・単位数・履修学年・履修区分・使用する教科書

科目名	生物	単位数	5	履修学年・区分	3年・理系コース
使用する教科書	(実教出版) 生物				
副教材等	エブリィノート生物 セミナー生物基礎+生物 スクエア最新図説生物				

2 学習目標

生物的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察・実験等を行い、探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理等の理解を深め、科学的な自然観を育成する。

3 学習方法

図説や実験を見ながら自然現象に対し興味関心を持つ。復習（特に問題演習）を十分に行って、理解を深め、知識を定着する。

4 学習内容

学期	区分	学習内容/評価範囲等
前期	中間考査	1章 生物の進化
	期末考査	2章 生物現象と物質 3章 遺伝情報の発現と発生
後期	中間考査	4章 生物の環境応答 5章 生態と環境
	期末考査	共通テスト対策演習

5 学習評価

評価項目	観点1	観点2	観点3
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業観察・発表等		○	○
提出物・レポート等	○	○	○
定期考査・小テスト	○	○	
備考	○印はそれぞれの観点の重点項目を表しています。それぞれの観点ごとに、A十分満足できる、Bおおむね満足できる、C努力を要すると評価します。		

6 学習サポート(担当者から)

イラストや図を描いて、生物や自然現象をしっかりとイメージし、理解を深めよう。毎時間の授業等で不明な点や疑問点がある場合は、質問して下さい。

令和7年度 理科 地学基礎の学習（シラバス）

1 科目・単位数・履修学年・履修区分・使用する教科書

科目名	地学基礎	単位数	2	履修学年・区分	3学年 文Ⅱクラス
使用する教科書	高等学校 地学基礎（数研出版）				
副教材等	スクエア最新図説地学（第一学習社）、リードLightノート地学基礎（数研出版）、ベストフィット地学基礎（実教出版）				

2 学習目標

日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、地学的に探究する能力と態度を育てるとともに、地学の基本的な概念や原理・原則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。

3 学習方法

講義形式の授業中心。副教材の問題集等を利用した復習により、内容理解・知識定着をさせる。

4 学習内容

学期	区分	学習内容/評価範囲等
前期	中間考査	第3編 大気と海洋 第1章 地球の熱収支 2. 地球全体の熱収支 第2章 大気と海水の運動 1. 大気の大循環 2. 海水の運動
	期末考査	第5編 太陽系と宇宙 第1章 太陽系と太陽 1. 太陽系の天体 2. 太陽 3. 太陽系の誕生と現在の地球 第2章 1. 宇宙の誕生
後期	中間考査	第2編 移り変わる地球 第1章 地層の形成 1. 堆積作用と堆積岩 2. 地層の形成 第2章 古生物の変遷と地球環境 1. 化石と地質年代の区分 2. 古生物の変遷
	期末考査	共通テスト対策演習

5 学習評価

評価項目	観点1	観点2	観点3
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業観察・発表等		○	○
提出物・レポート等	○	○	○
定期考査・小テスト	○	○	○
備考	○印はそれぞれの観点の重点項目を表しています。それぞれの観点ごとに、A十分満足できる、Bおおむね満足できる、C努力を要すると評価します。		

6 学習サポート(担当者から)

全体的には計算や法則は少ないですが、図やグラフを読み解くことが大切です。学習は授業を軸にして問題集等で復習をしっかり行ってください。
地学には、日本ではよく起こる「地震」「火山」「台風」等の災害に関する内容もあり、そのような自然観を養う教科でもあります。学習を通してそのような自然現象等に興味や関心を持ってください。

令和7年度 理科 化学探究の学習(シラバス)

1 科目・単位数・履修学年・履修区分・使用する教科書

科目名	化学探究	単位数	2	履修学年・区分	3学年・文Ⅱクラス
使用する教科書	数研出版『化学基礎』				
副教材等	数研出版『リードα 化学基礎』				

2 学習目標

<p>日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察・実験、演習などを行い、化学的に探究する能力と態度を育むとともに化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・化学の学習内容が日常生活や社会とかわかっていることを知り、身近な物質とその変化への関心を高める。 ・化学の学習は環境に配慮した上で、健康で安全な生活を送るために欠かせないものであることを理解する。 ・主体的に観察、実験などに取り組むことによって科学の方法を学び、化学的に探究する能力と態度を身に付ける。 ・化学の基本概念や原理・法則を具体的な物質の性質や反応と結び付けて理解し、活用する能力を身に付ける。 ・物質に関する原理・法則の基礎を理解し、物質とその変化を微視的にとらえる見方や考え方を養う。
--

3 学習方法

<p>主体的に授業に取り組み、復習を十分に行って理解を深め、知識を定着させて下さい。また、目的意識を持って積極的に実験、演習に取り組んで下さい。</p>
--

4 学習内容

学期	区分	学習内容/評価範囲等
前期	中間考査	序章 化学と人間生活 第1編 物質の構成 第1章～第3章
	期末考査	第2編 物質の変化 第1章～第3章
後期	中間考査	問題演習
	期末考査	問題演習

5 学習評価

評価項目	観点1	観点2	観点3
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業観察・発表等	○	○	○
提出物・レポート等	○	○	○
定期考査・小テスト	○	○	
備考	○印はそれぞれの観定の重点項目を表しています。それぞれの観点ごとに、A十分満足できる、Bおおむね満足できる、C努力を要すると評価します。		

6 学習サポート(担当者から)

<p>授業に集中して復習を特に重視して下さい。計算などの問題が多くあるので、反復練習し着実に定着できるようにして下さい。日々の努力を怠らず、計画的に学習に取り組みましょう。</p>
--

令和7年度 保健体育科 体育シラバス

1 シラバス・単位数・履修学年・履修区分・使用する教科書

教科名	体育	単位数	3・2単位	履修学年・区分	3学年・文Iコース(3単位) 3学年・文II、理系(2単位)
使用する教科書					
副教材等					

2. 学習目標

運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康、安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。

3. 学習方法

選択種目①～③については、各領域から3種目選択して行う。
領域選択については、全領域から1種目選択して行う。
※領域・・・器械運動、陸上競技、球技

4. 学習方法

学期	区分	学習内容
前期	4月	体づくり運動・選択種目①
	5月	
	6月	選択種目②
	7月	
	9月	
後期	10月	選択種目③
	11月	
	12月	領域選択
	1月	

5. 学習評価

評価項目	観点1	観点2	観点3
	知識、技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
選択種目①	○	○	○
選択種目②	○	○	○
選択種目③	○	○	○
領域選択			○
備考	○印はそれぞれの観点の重点項目を表しています。 それぞれの観点ごとに、A十分満足できる、Bおおむね満足できる、C努力を要すると評価します。		

5. 担当者からのメッセージ

各種目の技能を評価するだけでなく、苦手種目でも克服しようと努力する意欲・態度を大きく評価します。
また、集合整列、準備片付け、服装、授業態度が評価に大きく影響するので、担当者の話をよく聞き、主体的に授業に取り組むこと。

令和7年度 芸術科 音楽Ⅱの学習（シラバス）

1 シラバス、単位数、履修学年、履修区分、使用する教科書等

科目名	音楽Ⅱ	単位数	2	履修学年・区分	3年4クラス音楽選択者
使用する教科書	教育芸術社 MOUSA 2				
副教材等	ウクレレ曲集				

2 学習目標

音楽の諸活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現の能力と主体的な鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。

3 学習方法

基本的には音楽Ⅰの学び方を踏襲していきます。元の楽曲に様々な創意工夫を取り入れ、グループ発表の時間を多く取り入れていきます。

4 学習内容

学期	区 分	学習内容、評価範囲等
前期	4月～	歌唱（日本のポピュラーソング）・鑑賞（オペラ・ミュージカルについて）
	6月～	ウクレレの演奏 歌唱（日本のポピュラーソング）
後期	10月～	歌唱（アカペラ・クイーンの楽曲）ギター演奏（弾き歌い） ハンドベルの演奏
	1月～	歌唱（卒業を歌う）

5 学習評価

評価項目	観点1	観点2	観点3
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に授業に取り組む態度
授業観察	○	○	○
提出物		○	○
小テスト	○		
実技テスト	○		
備考	○印はそれぞれの観点の重点項目を表しています。それぞれの観点ごとに、A 十分満足できる、B おおむね満足できる、C 努力を要すると評価します。		

6 担当者からのメッセージ

音楽Ⅰで身につけた基礎的な奏法を一層深められるようにしていきます。一人一人が思考・判断し様々な方法で表現していきます。更に楽曲の背景となる文化や社会との関わりを捉えられるように学習していきます。練習を重ね少しずつ技術を磨いていってまいります。

令和7年度 芸術科 書道Ⅱの学習（シラバス）

1 シラバス、単位数、履修学年、履修区分、使用する教科書等

科目名	芸術・書道Ⅱ	単位数	2	履修学年・区分	3年4クラス・書道選択者
使用する教科書	書Ⅱ：教育図書				
副教材等					

2 学習目標

書道Ⅰを受けて、その発展とし、書道の創造的な諸活動を通して、書の関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を育成することを目指します。

3 学習方法

実技中心となります。漢字の五書体を全てマスターします。特徴を理解し、それぞれの技法を学びます。幅広い書活動に取り組み、書の伝統と文化に親しみます。添削指導により技術の向上を目指します。

4 学習内容

学期	区分	学習内容、評価範囲等
前期	4月～	①漢字の書 1篆書「泰山刻石」 2隸書「乙瑛碑」 3草書「十七帖」 「書譜」
	7月～	②刻字 書を立体的に表現する。
後期	10月～	③草書を半切に書く ④仮名の書
	1月～	⑤漢字仮名交じりの書 心に響く言葉を色紙に表現する

5 学習評価

評価項目	観点1	観点2	観点3
	知識・技術	思考・判断・表現等	主体的に学習に取り組む態度
学習状況の観察	◎		◎
学習記録まとめ	○	◎	○
提出作品	◎	◎	
発表		○	◎
備考	○印はそれぞれの観点の重点項目を表しています。それぞれの観点ごとに、A十分満足できる、Bおおむね満足できる、C努力を要すると評価します。		

6 担当者からのメッセージ

・書道Ⅰの発展になりますので、漢字の五体を全て学びます。刻字・砂字等の彩りの作品にも挑戦します。集中して写経にも取り組みます。漢字仮名交じりの書では、贈る書をテーマに心に響く「ことば」を仕上げます。さまざまな作品と向き合い、楽しみながら集中力を養います。

・授業の説明をよく聞くとともに、教科書の「臨書・鑑賞の要点」等をよく読んで理解し、芸術的な表現ができるよう努力しましょう。

令和7年度 英語科 コミュニケーション英語Ⅲの学習（シラバス）

1 シラバス 単位数、履修学年、履修区分、使用する教科書等

科目名	コミュニケーション英語Ⅲ	単位数	4	履修学年・区分	3年全クラス
使用する教科書等	第一学習社 Power On English Communication Ⅲ				
副教材等	ワークブック等補助教材、英文法・語法教材、リスニング教材				

2 学習目標

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解し、他者に適切に伝える能力を養う。学習した語彙、文法・語法の知識を基礎に、読解力と表現力の向上を目指す。また、背景にある文化の理解も深める。

3 学習方法

予習→授業→復習のサイクルを大切にしましょう。4技能をバランス良く習得するために、ペアワークやグループワークの形式を用いて、言語活動をたくさん取り入れます。授業で学習した語彙や表現を使って自分の意見を他者に伝えることができるように、積極的に授業に取り組んでください。

4 学習内容

学期	区分	学習内容、評価範囲等
前期	中間考査	L.1 Library of the Future L.2 History Maker Otani Shohei L.3 Zoo Dentists: How They Work for Zoo Animals
	期末考査	L.4 Nature Photographer in Alaska L.5 A Science Award That Makes You Laugh, and Then Think L.6 Where Does Halloween Come from?
後期	中間考査	L.7 Will 3D Printing Technology Change the World? L.8 A Conductor of the Underground Railroad
	期末考査	L.9 English, Always Growing L.10 Understanding the Culture of Dogs

5 学習評価

評価項目	観点1	観点2	観点3
	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう態度
授業観察	○	○	○
提出物	○	○	○
小テスト	○	○	○
定期考査・課題テスト	○	○	○
パフォーマンステスト	○	○	○
重み	40	40	20

6 担当者からのメッセージ

現代社会を捉えた新鮮な題材を通じて語彙力・文法力・読解力を向上させ、考えや意見を他者に伝える力を養っていきましょう。また、授業中の言語活動を通し、コミュニケーション力を伸ばしていきましょう。本文理解はもちろん、内容に関係する時代背景や社会問題にも目を向けることで視野が広がります。さらに、生徒相互における情報交換や意見共有の活動に積極的に取り組むことで価値観が豊かになり、グローバル社会に対応できる幅広い能力を育むことが期待できます。

"Slow but steady wins the race!" (継続は力なり)

令和 7 年度 英語科 論理・表現Ⅲ (シラバス)

1 科目・単位数・履修学年・履修区分・使用する教科書

科目名	論理・表現Ⅲ	単位数	1～4組 (3) 5～7組 (2)	履修学年・区分	3年全クラス
使用する教科書	三省堂 MY WAY Logic and Expression Ⅲ				
副教材	ワークブック等補助教材				

2 学習目標

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、「話すこと」及び「書くこと」に関する技能を中心に、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。

3 学習方法

2年生に引き続き、学習した文法や表現を使って自分の意見を伝えることができるように、各Lessonとも、文法解説、Practice、既習の文法・表現のinput、さらにそれらを使ってのoutput活動というパターンで学習します。

4 学習内容

学期	区分	学習内容／評価範囲／学習のねらい	
前期	中間考査	・Lesson 1 ・Lesson 2 ・Lesson 3	・さまざまなタイプの動詞・時制・助動詞の特徴やきまりに関する事項を確認し、それを用いて、身近なものと社会的なできごとについて、複数の文を言ったり書いたりする。
	期末考査	・Lesson 4 ・Lesson 5 ・Lesson 6 ・Lesson 7	・不定詞と動名詞・分詞や分詞構文・比較の表現・関係詞の特徴やきまりに関する事項を確認し、それを用いて、身近なものと社会的なできごとについて、複数の文を言ったり書いたりする。
後期	中間考査	・Lesson 8 ・Lesson 9 ・Lesson 10 ・Situation 1	・仮定法・名詞と代名詞・前置詞と接続詞の特徴やきまりに関する事項を確認し、それを用いて、身近なものと社会的なできごとについて、複数の文を言ったり書いたりする。 ・入国審査の際に必要な、多様な語句や文を身に付ける。
	学年末考査	・Situation 2 ・Situation 3 ・Situation 4 ・Situation 5	・ホームステイ先のルール・日本からのおみやげについて、情報や自分の考え、気持ちなどを整理して伝え合うための多様な語句や文を身に付ける。 ・電話で落とし物の問い合わせをする際・ミーティングの日程を調整する際に必要な、多様な語句や文を身に付ける。

5 学習評価

評価項目	観点①	観点②	観点③
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業観察	○	○	○
提出物	○	○	○
発表	○	○	○
レポート	○	○	○
小テスト	○	○	○
定期考査	○	○	
備考	○印はそれぞれの観点の重点項目を表しています。それぞれの観点ごとに、A十分満足できる、Bおおむね満足できる、C努力を要すると評価します。		

6 学習サポート(担当者から)

この授業では、2年生に引き続き、英語の表現力を磨くための活動を行います。『論理・表現Ⅱ』の復習をしながら新しい表現を身につけていきます。言葉を使った活動はとて複雑です。その複雑なやりとりを外国語で行うために、多様な表現を学び、それを使えるようにすることが必要です。そのために文法事項や文型をしっかり覚え、それらを使って自分の考えなどを発表したり、発表への質疑応答ができるようになるのが目標です。分からないことがあったら、担当の先生や友達に遠慮なく質問して疑問点を解決していきましょう。

令和7年度 情報科 情報活用実践シラバス

1 科目・単位数・履修学年・履修区分・使用する教科書

科目名	情報活用実践	単位数	1	履修学年・区分	3学年・文Iコース
使用する教科書	30時間でマスター Word & Excel 2019				
副教材等					

2 学習目標

社会に出て業務を効率的に行うためにも、ビジネス文書作成の知識や技術力は不可欠です。そこで、2年生で学習した基本操作の上に、タイピング技術の向上や表計算問題などに取り組み、実践的な技術を習得します。また、毎日パソコン入力コンクール2級以上取得することが目標です。

3 学習方法

パソコン室での授業になります。授業ではWindowsPCを使用しますが、予習・復習はChromebookを使用してGoogleドキュメントやスプレッドシートを活用してください。

4 学習内容

学期	区分	学習内容/評価範囲	学習の狙い
前期	(実技検定)	毎日パソコン入力コンクール 6月大会	タイピングの基礎を学び、速く正確に文字入力ができるようにする。
	期末考査	1章 Windows10の基礎 2～4章 Word	WindowsPCの基本的な操作方法と、Wordの様々な編集技術を習得する。
後期	(実技検定)	毎日パソコン入力コンクール 秋季大会	タイピングの基礎を学び、速く正確に文字入力ができるようにする。
	期末考査	5～8章 Excel	Excelの様々な編集技術を習得し、関数を使いこなせるようにする。

5 学習評価

評価項目	観点1	観点2	観点3
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業観察・発表等			○
提出物・レポート等	○	○	○
定期考査・小テスト	○	○	○
備考	○印はそれぞれの観点の重点項目を表しています。それぞれの観点ごとに、A十分満足できる、Bおおむね満足できる、C努力を要すると評価します。		

6 学習サポート(担当者から)

授業内でタイピングの検定試験を実施します。合格級によっては、履歴書等の資格欄に記載できるものですので真剣に取り組ましましょう。また、すべての学習が終わる頃には、ビジネスシーンに対応した文書作成技術が備わり、希望の進路を実現するための一助となることでしょう。